

令和3年度 公開授業が開催されました

令和4年1月25日(火)に「令和3年度 公開授業」が開催されました。今回の公開授業は7月に研修を開催したCOIL(国際協働オンライン学習(Collaborative Online International Learning))に関連して、COIL型の授業を展開された先生の授業から学ばせていただいたものです。今年度の公開授業は、授業の特性を考慮し、例年の「授業を見学する」という方法とは異なった新たな形での開催となり、また、社会的な感染症拡大の状況を鑑み急遽オンラインによる開催となりましたが、withコロナの大学における授業の在り方を考える観点からも実り多いものでした。当日の様子と参加者の感想をご報告します。

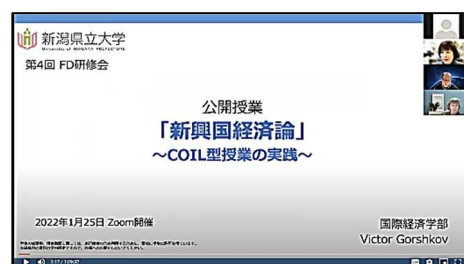
【授業科目】新興国経済論

【担当教員】国際経済学部 Victor Gorshkov 准教授

【日 時】令和4年1月25日(火) 5限 16:30~18:00

【開催方法】オンライン開催(zoom)

【参加者数】21名



<公開授業の概要>

今回、国際経済学部ゴルシコフ先生の「新興国経済論」(2年次専門基礎科目(選択科目))におけるCOIL型授業を取り入れた授業を中心として公開していただきました。15コマのうちの第7・8回にあたる「ケーススタディから学ぶ新興市場における国際ビジネスの戦略を理解する(COIL型授業)」がテーマです。

まず、当該の回の公開に先立ち、本授業の概要・学生の到達目標、授業運営の在り方、成績評価、そして学習内容を課外活動で活かす学生の様子など、教員の理念に基づいた本授業全体の在り方について解説がなされました。その上で、当該回のCOIL型授業の概要、それにあたっての事前準備としての日程調整や課題作成、学生間のICTツールを用いた事前交流や事前学習、そして当日のセッションの様子と成果、学生からのフィードバックと教員の振り返りについて詳細にわたりご説明いただきました。

実際の学生の授業での成果発表の動画なども用いながら、教員がどのようなねらい・願いをもって授業を組み立てて教材を準備したのか、学生の様子はどうであったのか、取り組んで明らかになった課題はなんであるのか、多くの視点から授業を公開・解説していただき、参加者は様々な刺激を受けました。次ページの参加者の皆様のご意見からもうかがえるとおり、国際的な観点をを用いた学習、および、学生の主体的学習の在り方の両側面において、多くの学びのある公開授業でした。

アウトライン

1. 新興国経済論の授業紹介
 - ・ 授業概要および到達目標
 - ・ 授業運営と教育評価
 - ・ 成績評価
2. 新興国経済論におけるCOILの位置付け
 - ・ COILとは
 - ・ COILを導入した理由
3. COIL型授業の内容紹介
 - ・ 協働学習のクラスの概要
 - ・ 実施計画と学習内容
 - ・ 利用した教材・ICT
 - ・ 動画から見る授業の様子(学生同士のディスカッション、成果発表)
 - ・ 学生と教員によるフィードバック

【参加者アンケートより】(抜粋 趣旨を変えずに一部編集してあります)

1. 公開授業の感想をお願いします。

- *教材の準備からグループマネジメント、授業の運営に至るまで、大変な労力をかけられていることに感動しました。学生からポジティブなフィードバックが多かったのは、そういった授業に対する教員の取り組みに対する感謝の思いを学生が抱いていたのではないかと思います。
- *ゴルシコフ先生のお取組みに大変深い感銘を受けました。特に、細部にまで徹底して考えをめぐらし工夫を凝らしていらっしゃる場所、その徹底さと強い意志に驚きに近いものを感じ、大きな刺激を受けました。
- *前期の COIL 授業についての反省を踏まえて COIL に再挑戦されたこと、教育方法について常に改善・改革を試みていらっしゃることに感銘を受けました。
- *他人がどのように授業を展開しているのか、知ることができて参考になった。また、学生の反応や様子も知ることができてよかった。ありがとうございました。
- *公開授業は久しぶりに参加いたしました。他の先生の取り組みを知ることは、自身の授業のモチベーションの向上にもつながることを改めて意識しました。

2. 今回の授業を参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。

また、ご自身の授業に活かしたいと思ったことなど、何でも自由に記述してください。

- *次年度以降の専門演習で COIL にトライできると学生にとって成長の機会につながるだろうなと思いました。
- *COIL は英語による外国人学生との交流という点が最重要な目的だと思いますが、むしろゴルシコフ先生の御説明を伺って、日本人の他のグループの学生と日本語により同様の交流を行うことの有用性も痛感いたしました。学生は日本語であっても、自由に発言できない、質問ができないという傾向があります。別の言い方をすればサブスタンスは英語であろうと日本語であろうと一緒だということです。同様の取組みを専門演習でのインターゼミ等を通じて行うことで学修効果が高められると考えています。
- *私の担当する科目では、意図的に「noninteractive かつ一方授業」を行っています。最大の理由は、知識と技術の取得に重点があるからです。その意味で、グループワークを軽視していましたが、今回のお話を聞いて、特にユニクロ国際展開に関する、経済的状況を考慮した Business administration 的な授業の展開方法を伺い、「授業で学んだ知識を、グループで確認しながら、共同作業する」みたいな時間を設けてもよいのかなと思った次第です。次の自分の授業でも少しずつ取り入れてみようと思います。
- *学部生のためには基本的な知的概念をきちんと身につけることやそのための思考実験を自ら行うことがまずは必要と思いました。
- *自身の授業に活かせるのかは、まだわかりませんが、これから同学科の他の先生方のご意見も伺いながら取り入れていけるのであればその努力をしていきたいと思います。
- *毎年新しいものを授業で使ってみるというスタンスという担当者の姿勢に非常に感銘を受けました。私の授業にも HOT や LOT を意識した練習問題や課題の設定などを行いたいと思います。
- *事前学習のための教材づくりとその提供、学生が挑戦したいと思う場の創造など、見習いたいと思いました。
- *かなりのエフォートを割いており素晴らしいと感じたが、同程度の時間を自分が準備に割くことができるかどうかとなると、難しいと思った。しかし、工夫したり入念に準備をしたりするなど他人の授業内容を垣間見ることで、励みになった。
- *考える力をつけるためのケースを用いた授業は自分の授業でも生かしていきたいと思います。ケースの作り方などを今後また学ぶ機会があるとありがたいです。

ぜひご活用
ください！

今回の公開授業の様子は学内者限定で視聴することができます。manaba folio にお知らせを掲載しておりますのでご確認ください。
ご不明な点などございましたら、教務学生課までご連絡ください。

なお、COIL 型授業については、FD 委員会便り第 1 号も併せてご覧ください。
こちらの研修動画（第 1 回 FD 研修会）も Stream から視聴できます。